

寺
こよみ

四 月

一 日 下村お講
一 日 清掃奉仕
一 三 日 歎異抄講座
一 六 日 栗虫お講
二 四 日 花つみ
二 五 日 花の誕生会

花の誕生会

二五九時 お寺の学校
十時 初参式
おつとめ
記念珠贈呈
おはなし
縁日

冥加金 三千元

お申し込みは二十日まで
地区総代さん又はお寺ま
でご連絡ください

寺 報 善 巧

発 行
〒 938-0862 富 山 県
下新川郡宇奈月町浦山497
白 雪 山 善 巧 寺
T E L (0765) 65-0055
F A X (0765) 65-0975
メー ル zengyou@box.email.ne.jp



四月二十五日十時 花の誕生会

みんなのいのちありがとう

四月はお釈迦さまのご誕生をお祝する花まつりの月です。親鸞聖人のご誕生も四月一日と伝えられてきたのですが、太陽暦に変わるとき換算して五月二十一日に定められています。どちらも春の花の季節で、お祝にふさわしい彩りです。

浄土真宗では、お仏壇やお寺の内陣にお釈迦さまを安置しますが、浄土真宗ほどお釈迦さまの精神を重視する宗旨はないのではないのでしょうか。親鸞聖人はお正信偈に「如来所以興出世 唯説弥陀本願海」と述べられています。意味は、お釈迦さまの一生を総括して「釈迦如来がこの世に outcomes 出ましになったのは、ただ弥陀の本願の教えを説く一事でありました」とたたえておいでなのであります。阿弥陀如来に帰依し念仏申すことがお釈迦さまの精神に沿うことになる意です。

和讃には「釈迦弥陀は

お釈迦さまへのプレゼント

慈悲の父母 種々に善巧方便し われらが無上の信心を發起せしめたまひけり」とたたえて、浄土の弥陀とこの世に出現されたお釈迦さまが、協力してあらゆる手段を尽して私どもをお育てくださったおかげで、いま仏法に遇うことができたと思嘆されています。よく知られています二河白道の譬では、釈迦如来はこちらから「行け、行け」とお勧めになり、向う側からは弥陀如来が「安心してそのまま来い」とよんでいてくださると示されて、お釈迦さまの指示が、ただ弥陀仏への帰依であることを語られています。お釈迦さまのご誕生をお祝して甘茶をかけたり、お花をお供えしますが、誕生仏への最高のプレゼントは「弥陀の本願を聞いて」往生するにまちがいない身になることでありましょう。

本願寺派御学 靈山勝海師
(七月祠堂会にご出講されます。)



本願を聞く②

本願寺派勸学

梯實圓和上



本願（第十八願）には、本願を信じ、念仏する者は必ず浄土に往生させると誓われていますが、最後に、「ただ五逆と正法を誹謗するものをば除く」ときつぱりと仰せられています。このお言葉を善導大師は「抑止門」であるといわれています。五逆罪を作り、正法を謗つ

て恥じないような者は往生させないと抑え止められているからです。それに対して本願を信じてお念仏するものを必ず浄土へ生まれさせるとお誓いになっているからです。これを撰取門といっています。本願にはこのように撰取門と抑止門とがあるので

す。
『尊号真像銘文』には、本願の抑止の言葉を次のように注釈されています。

「唯除五逆誹謗正法」といふは、「唯除」といふはただ除くといふこと

ばなり、五逆のつみびとをきらひ、誹謗のおもきとがをしらせんとなり。このふたつの罪のおもきことをしめして、十方一切の衆生みなもれず往生すべしとしらせんとなり。

「父を殺す」、「母を殺す」、「阿羅漢を殺す」、「仏身より血を出だす」、「和尚僧を破る」ことで、これを五逆罪といっています。

まず父親や母親を殺す。自分を生み、育ててくれた、この世で一番深い恩を受けている父と母を、自分の都合で殺してしまうというのですから、この世では一番重い罪です。「阿羅漢を殺す」とは、煩惱を断ち切り、そして悟りを開いておられる阿羅漢（最高の聖者）であっても自分に気に入らないというので殺してしまうことです。「仏身より血を出だす」というのは、お釈迦さまを殺そうとして、未遂に終わりましたが、怪我をさせたことをいいます。「和尚僧を破る」という、和尚僧とは、僧伽の訳語です。修行僧たちの争いのない和やかな集いという意味で、和合衆とも訳しています。簡単にはいえば教団のことです。人々の心の拠り処になっている教団を分裂

させ、破壊していくことです。ところで「正法を誹謗する」というのは仏陀が説かれた正しい教法を謗ることです。仏陀とは生と死を超えて、生と死を一望のもとに見通すような智慧を開いた方です。そして生きることにも有難いことであり、死ぬことにも有難いことであるとい

い切れるような精神の領域を開いているお方でした。そしてこのように生きるのが正しい生き方です。このように死を受け入れていくのが正しい死の受け入れ方です。生と死に処する正しい在り方を私たちに教えてくださったのが仏陀の教法なのです。それを正法といふのです。私たちは、この正法に順って生きていくとき、初めて心豊かに生き、心豊かに死を迎えることができるような人生が開けてくるのです。ところが正法を謗ると

正しい道理の感覚を失った人は、ブレーキも利かず、ハンドルも利かなくなつた車のように暴走するしかありません。

いうことは、そういう仏陀もなければ、仏陀の教えも虚構に過ぎないといつて、自分だけではなく人々の心の抛り処も破壊してしまうことです。正しい教えを失った人は、生きる方向も、なすべきことも分からなくなつてしまいます。そこで自分の都合を中心にして、自分に都合がいいか悪いかで、物事を判断し行動をしていきますから、利害が衝突し、バラバラに意見が分かれて、激しい争いの世界が出現し、自他ともに苦しんでいかねばならなくなります。五逆罪の根底には実は正法を認めず、正しい道理を踏みにじる「謗法」があつたのです。正しい道理の感覚を失った人は、ブレーキも利かず、ハンドルも利

かなくなつた車のように暴走するしかありません。この五逆罪の中で父母を殺すことは世俗のなかでの極重罪ですが、阿羅漢を殺すことと、和合僧を破ることとは三宝の中の僧宝に対する反逆であり、「仏身より血を出だす」ということは仏宝に反逆することです。そして「正法を誹謗する」とは法宝にそむくこととなります。これを合わせますと仏宝と法宝と僧宝という三宝に対する反逆を極重の罪悪として示されたこととなります。三宝とは、皆様もよくご存知のように、仏教徒になる



眞実の行

本願寺派勸学・梯 實

ときに帰敬式を受けますが、その時、仏前で誓う三帰依の内容です。「仏に帰依し奉る」とは、眞実の道理を悟られた仏陀を心の抛り所として生きることです。「法に帰依し奉る」とは、仏陀がお説きくださったまことの教えを心の光と仰いで生きることです。「僧に帰依し奉る」とは、仏陀のみ教えに従つて生きている人々の和やかな

集いを心の支えとして生きていきますということ。この仏陀と、そのみ教えと、教えに生きる人々こそ、私どもにもつとも大切な宝ですから三宝というのです。聖徳太子も『憲法十七条』に「篤く三宝を敬う」とい

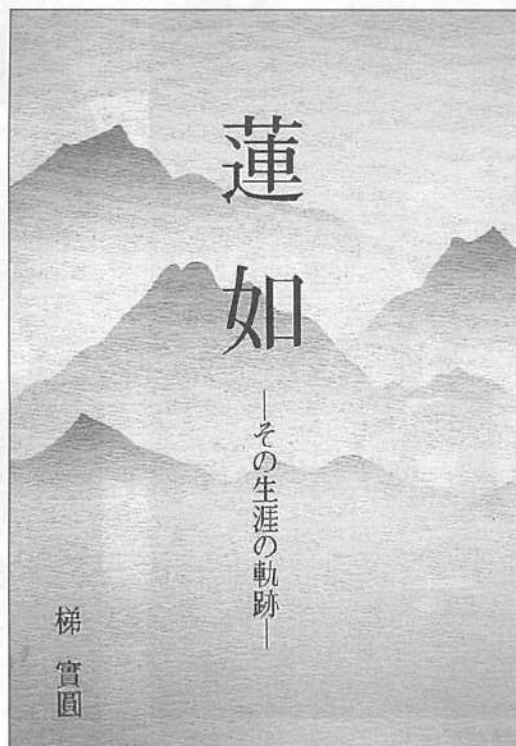
にねじ曲がつている人間の心と行動を正していくものこそ三宝なのです。五逆と謗法は、三宝に反逆し、自他ともに悪道に転落していく行為でした。それゆえ「五逆の罪人を嫌い、誹謗の重きとがを知らせて」厳しく回心を迫っておられるのが抑止門でした。

(つづく)

蓮如

—その生涯の軌跡—

梯 實圓



梯實圓師の出版物はお寺にも置かせてもらっています。

「蓮如」(百華苑)、

「今をよろこべる心」(自照社出版)
「生かされて生きるいのち」(自照社) など

御正忌報恩講

一月十三〜十六日



大阪より佐々木徹生師

浄土真宗で最も大切な
ご法要、宗祖親鸞聖人の
御正忌が例年どおり四日
間にわたってお勤まりに
なりました。



善巧寺副住職教隆



初出講の転法輪正視師



お世話の方々いつもありがとう



田中くん、成人おめでとう！



ゴ〜ン



新年のご挨拶後、おでんを囲んで和やかに



12月30日 恒例のもちつき大会



かるた大会



ヨイショ！

仏教婦人会 総会 二月一日

去る二月一日午後、善巧寺仏教婦人会総会が門徒会館ホールで開催されました。各地区からおよそ五十名が参加。

まず、住職のお導師でお勤め。開会式のあと、坊守の法話『限りあるいのち』を聴聞しました。

中休みには、花の会が御堂演奏会で歌った仏教讃歌を披露。続いて橘照子副会長のフラダンスと手品を楽しみました。

今年は三期目の改選の年にあたり、三月お講の浦山・栃沢の新役員が紹介されました。栃沢からは十名の参加があり、拍手で大歓迎。

新役員は次の通りです。

会長 藤沢久美子
副会長 檜 初枝
書記 開沢 光子
監査 河村 君子
計 沢田なみ子

役員の皆さんにご協力のほどよろしく願いします。また中林昌子会長をはじめ旧役員のみなさん二年間ありがとうございました。



新役員の方々



歌と踊り・手話 元気な舞台披露

大沢 雪ん子劇団(宇奈)公演

宇奈月町の児童らでつくる「言葉の教室 雪ん子劇団」の大沢野町制五十周年記念公演が六日、同町民文化会館で行われ、約六百人の観客を楽しませた。
プロローグ「みんなで雪ん子」で幕開け。舞台

の子どもたちと観客が一緒に背伸びをしたり首を左右に曲げたりして準備体操を行った。続いて舞台上に高座がつけられ、子どもたちが落語家になり一口小話を披露した。

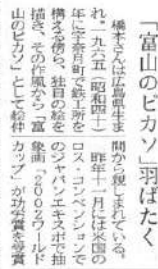
同劇団が創立以来、二十五年間演じ続けている手話ミュージカル「うちのとうちゃんえらいんだ」を上演。歌、踊り、手話による躍動的な演出で、さまざまな職業の意義と家族が一つにまとまる大切さを元気いっぱい



元気いっぱいにミュージカルを演じる「雪ん子劇団」の子どもたち

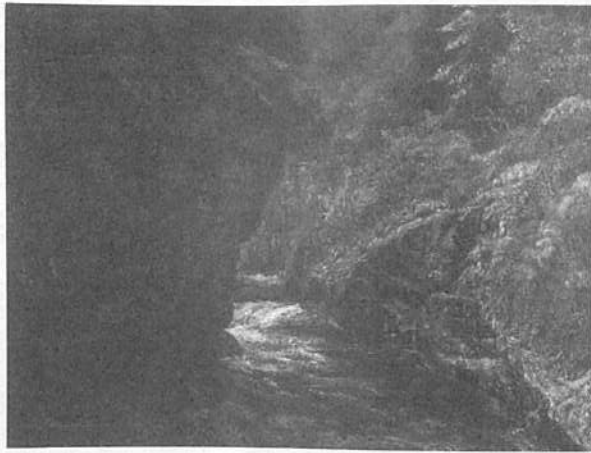
自分の絵世界へ発信

「これは、この世の唯一の真実」
 桂枝下町の異変会にも出
 場まへは、世界を自
 れしいと語っている
 多岐義は、その



高松昭春 画集

Akiharu Takamatsu



高松昭春さん(黒部市)が喜寿を記念に画集を出版されました。

「日本一の友情」エッセイコンテスト 受賞者交流会



上中央、川瀬律子さん（入膳）
上左二番目、鬼原六義さん（浦山新）



「いつもバカにされてるんですよ」と言われるが、その奥さんは笑ってお茶を出しておられた。最近はお出進退で人間が決まると、彼の哲学である。

(Y)

*下記は、鬼原六義さんの代表「どでカボチャ友の会」のホームページ。

ぼくたち三年生は、鬼原さんから
いただいた巨大カボチャを植え、み
んなで水やりと観察を続けました。
大きな葉っぱと太いこもびっけり
しました。

八月末に収穫！ 目標の百kgには
とどかなかったけど、七十二kgもあ
り、みんな大喜びでした。鬼原さん
が「大きく育

だいき

「チヤを大きくしたんだなと思ひまし
た。」

巨大カボチ

クラスでハロウィンパーティーをした時、カボチャでジャコランタンを作りました。楽しいハロウィンになり、すてきな思い出になりました。

（著者：二橋小3年 春日朋太）

▲(左)書田上青小3年・杉田義汰
児童と巨大ポリチャ作りの思い出を話す鬼原さん
(右)川入鑛町上青小学校

北日本新聞より

ご門徒さんの情報ありましたら、お寺までご連絡ください。

book

本

永久の光に

利井 明弘著 本体1429円

先ごろ急逝した行信教校長・利井明弘氏がパソコンの中に残っていた原稿を天岸浄圓氏が整理したもの。親鸞聖人の和讃の中で、阿弥陀仏の徳を12の光でほめたたえた「十二光讃」を1首ずつ味わっている。

著者の実弟・雪山隆弘氏ががんで亡くなる以前に持病の痔と勘違いして検査を嫌がったエピソードなどを紹介しながら、「地獄必定のわが身ということを、私たちは痔程度だと自己診断している」と記す。生前の著者の声が伝わるような文章で綴られた1冊。

探究社刊 075 (343) 4121。

本願寺新報より

永久の光に

利井明弘

十二光讃



三月七日、営繕部では幹部会が行われ、昨年度からの申し送り事項〔集会所屋上の雨漏り防止工事〕の確認と本堂内陣の床、土台、壁などを現場見学しました。尚、この日営繕部副部長の浦滝俊雄さんが急逝なさいました。チューリップのご縁で二十五年以上のお付き合いをさせてもらった方です。お父さん譲りでこ

…営繕部から…

法義篤くお寺思いは一人倍、なくてはならない方でした。

越中人譚 第六十四号
舞田祐 〇〇〇
池田祐 〇〇〇
高田祐 〇〇〇
雪山隆弘 〇〇〇

「越中人譚」(チューリップテレビ発行)

あなたの往生は間違いないか

近頃はお寺参りの人が少なくなつたと言ったら、友人の歯医者が、

「寺に参らなくても、痛くも痒くもないからなあ」と言った。

歯医者には痛くなると夜中でも患者が飛び込んでくるというのである。

現代人には、こころの痛みはないのだろうか。新興宗教の現世利益を求める人たちは、後世はどうするのだろうか。

阿弥陀さまは、私のことを罪悪深重の凡夫と診断して下さり、放っておくと必ず地獄に堕ちるといわれている。

身内の不幸に遭った人が、弔問客にこう言っているのを聞いた人は多いだろう。

「生前はお世話になりました」

生前とは何時のことだろう。生まれる前は少しおかしくないだろうか。

死ぬ前はお世話になりました、というのなら判るのだが。実は、この言葉は「往生する前」という意味なのである。

だから、お浄土に往生された人にはこの言葉は使えないが、死んだ後の往く先が判らない人には、適当な言葉ではないのである。

蓮如上人は「ご文章」八十通の中に、今生のことより後生は解決しているのかと、四十二回も後生の一大事について、繰り返し、繰り返し説かれている。

さて、貴方の往生は間違いないといいきれるか。今年を機に、命がけで聴聞して頂きたい。

利井 明弘 師
(寺報八六号より)

山茶花の
紅清冽に
夜を占め
雪山喜子

一月号に出すことができなかったので少し季節外れを承知で今回掲載しました

寺 ごよみ

五月

一日 音沢お講①

一六日 音沢お講②

一七日 仏教団花まつり

一七日 歎異抄講座

二二日 常見寺専精舎

二四日 黒西組京都参拝

二五日 //

三〇日 総代会

寺 ごよみ

六月

一日 東狐・上野お講

六日 仏舍利塔法要

一六日 音沢お講③

一七日 歎異抄講座

第二十八回

花まつり ～ 花の誕生会 ～

四月二十五日 十時

花まつりとは、お釈迦さまの誕生日（四月八日）。善巧寺では、花まつりに合わせて、赤ちゃんの誕生を祝う「初参式」を行います。赤ちゃんが生まれたらまずお寺で初参り。新しいのちをみんなでお祝いしましょう。

受付は九時～九時半

冥加金三千元

ご連絡は

二十日までに

六五—〇〇五五



ちぎり絵展併設
場所：門徒会館1F
期間：四月二十四日～五月十八日
展示：橋照子ちぎり絵教室

初参式 いのちをよめるおひめ

○赤ちゃんの誕生を祝う初参式（しよさんしき）を受けられる方は、20日までに善巧寺（65-0055）へご連絡ください。対象は生後100日～3歳。参加費は3000円。



4/25 日 午前10時

会場：浦山善巧寺/雨天決行

○チューリップ協力：浦山善巧寺 浦山善巧寺 浦山善巧寺 浦山善巧寺 浦山善巧寺 浦山善巧寺 浦山善巧寺 浦山善巧寺 浦山善巧寺 浦山善巧寺
○飾り付け：日笠生 日笠生 日笠生 日笠生 日笠生 日笠生 日笠生 日笠生 日笠生 日笠生
○絵日：わたがし・ふうせん・甘茶・おたんご・こんにゃく <http://www.ne.jp/asahi/zengyou/hp/>

清掃奉仕

四月十一日午前八時半

（雨天順延）

花つみ

四月二十四日

午前八時集合



総代会 教化推進協議会

五月三十日午後一時

ちぎり絵展

期間

四月二十四日～

五月十八日

橋照子ちぎり絵教室
門徒会館にて



お稚児さん！ 仏教団花まつり

五月十六日午後

今年は生地の願楽寺、順昌寺で花まつりが行われます。稚児行列も出ますので、小さなお子様がおられる方は、記念に参加してみたいかがでしょうか。

お問い合わせは

順昌寺（五六—八二四五）

*仏教団は黒部、入善、宇奈月地区の寺院（宗派問わず）の集まりです。

納骨におかみそり

黒西組念仏奉仕団

参加者募集中！

五月二十四日～二十五日

黒西組（魚津、黒部、宇奈月の浄土真宗本願寺派寺院）のご門徒合同団体旅行です。本山に参拝し清掃奉仕をします。大谷本廟へも参拝しますので、納骨される方はこの機会にどうぞご参加ください。連絡はお寺まで。

合 掌

二月三月になってどつと雪が降りたまどいでしたが、春は確実に近づきました。花の蕾がふくらんでくる心がはります。

◇ ◇ ◇

新しいのちの誕生は本当に嬉しいことです。日曜学校や雪ん子出身者がベビーラッシュ。今年の初参式が楽しみです。

この世にいのちをいただくということは有難いことです。「子宝に恵まれる」とか「授かりもの」と言う言葉が聞かれなくなつた昨今ではありますが、恵まれたいのちを仏の子として大切に育てて欲しいと願います。

◇ ◇ ◇

花まつりはみんなのいのちを喜ぶ日です。あなたのお近くに赤ちゃん誕生のニュースはありませんか。善巧寺の花まつりにお誘いください。

